

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない四国地域の中核拠点病院の機能評価と介護療養体制整備

課題番号：24HB1003

【分担研究2】高齢者・福祉療養施設における研修会の開催、出張研修、意見交換

研究分担者：末盛 浩一郎（愛媛大学医学部 准教授）

研究要旨：

四国地域にはブロック拠点病院が存在しないものの、HIV 患者数は増加傾向にあり、全国で最も高齢化が進んでいる地域の一つであることから、HIV 患者の高齢化も顕著に進行している。今後、HIV 患者に対する介護および療養体制の整備は喫緊の課題であるが、現状では中核拠点病院への患者の集中が見られ、各県内のエイズ拠点病院における機能および介護・療養体制は必ずしも十分とは言えない。本研究により、比較的医療資源の乏しい、いわゆる「地方」においても、HIV 診療体制および介護・療養体制の充実と地域間における均てん化が促進されることが期待される。

令和6年度は、5か所の高齢者・福祉療養施設と1か所の就労施設・訪問看護ステーションにHIV出張研修を実施した。また、保健所にて中学・高校・大学の保健指導関係者、新聞・放送関係者を対象に講演を行った。なお講演内容は配布し、高齢者・福祉療養施設を含む地域における多職種連携の重要性について強調し、その普及に努めた。更に12月1日の世界エイズデーに合わせて、地方局のラジオ番組にも出演し、HIV感染症に関する最新情報や予防意識の向上を目的とした啓発活動を行った。地方におけるHIV診療体制の整備と充実を図っているものの、HIV感染者の高齢化に伴う新たな課題が顕在化しつつある。従来の高齢者・福祉療養施設への対応に加え、当事者を取り巻く地域社会全体への包括的なアプローチの必要性が高まっている。これらの課題に対し、継続的かつ多面的な啓発活動の展開が求められる。

研究分担者

武内世生・高知大学医学部・准教授
内田俊平・香川大学医学部附属病院・助教
尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局長
三木浩和・徳島大学医学部附属病院・講師
若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師
中村美保・高知大学医学部附属病院・看護師

A. 研究目的

四国地域にはブロック拠点病院が存在しないものの、HIV・エイズ患者は多く、当院においてもこれまでに累計220名以上の患者を治療している。近年、四国地域におけるHIV・エイズ患者数は増加の一途をたどっている。中核拠点病院に患者が集中する中、他の拠点病院においても診療・連携が求められるが、診療未経験および対応が

困難な状況が四国では特に著しい。四国地域における高齢化率は33%を超えており、都市部と比較して中高年層の患者が多い傾向にある。また、エイズ罹患率も40%を超えており、中年層においてもActivities of Daily Living (ADL) の低下が認められ、日常生活に支障を来し、自宅での療養が困難となるため、長期的な施設療養を要する症例も散見される。

当院でも、長期療養が必要な患者に対して他施設への紹介・受け入れを個別に調整しているが、受け入れ先の確保には難渋することが多い。加えて、医療的対応にとどまらず、家族支援・就労支援・経済的支援など、患者を取り巻く多様な社会的課題への対応も求められている。

これらの実情を踏まえ、当院では多職種による HIV 診療チームを組織し、患者が直面する多様な課題への対応を行っている。特に高齢者・福祉療養施設では出張研修を積極的に実施し、患者支援における地域連携の強化を図っている。研修終了後はアンケート調査を行い、地方における HIV 診療体制や医療機関間の連携に対する意見を収集し、今後のフィードバックとして活用している。さらに、これらの取り組みの成果は、日本エイズ学会をはじめとする学術的な場において継続的に公表・報告している。今後は、四国地域にとどまらず、全国各地における HIV 診療の発展と地域連携体制の構築に貢献することを目指す。

B. 研究方法

高齢者および福祉療養施設を対象に、HIV 感染症に関する研修会を実施する。研修の主な目的は、参加者に対する HIV 感

症に関する知識の啓発を図るとともに、HIV 感染者を支援する意識の醸成を促すことである。研修会終了後には、参加者を対象に HIV 感染者に関する意識調査を目的としたアンケートを実施する。アンケート結果を分析することで、研修会の効果を評価するとともに、今後の教育・支援活動の改善に資する知見を得ることを目指す。

また、HIV 感染者本人のみならず、その周囲の地域社会に対しても理解を深めることが重要であると考え、当事者を取り巻く地域社会全体への包括的なアプローチの一環として、啓発活動を実施する。これにより、HIV に対する偏見や差別の軽減を図り、支援的な地域環境の構築を目指す。

(倫理面への配慮)

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

C. 研究結果

愛媛県においては、2024 年 5 月 22 日、7 月 1 日、7 月 24 日、7 月 31 日、8 月 26 日の計 5 回にわたり、県内の高齢者・福祉療養施設 4 か所および就労支援施設 1 か所において、HIV 出張研修を実施し、

「HIV/AIDS 研修会～愛媛県の現状と地域連携の重要性～」(図 1) と題する講演を行った。

「研修内容の理解度」、「HIV 感染症に関する理解度」、「患者受け入れ体制」等について実施したアンケートには、計 61 名からの回答が得られた。「研修内容の理解度」については、回答者のほぼ 100% が十分に理解していると回答した。「HIV 感

症に関する理解度」および「患者受け入れ」に関しては、いずれも8〜9割の回答者から肯定的な評価が得られ、概ね良好な結果であった。

さらに、2024年11月6日には、保健所で中学校・高等学校・大学の保健指導担当者、ならびに新聞・放送等の報道関係者を対象として、「愛媛県のHIV診療と地域連携の最新情報」(図2)と題する演を実施した。

各回の講演においては、講演資料を印刷・配布し、HIV感染症に関する最新の知見の普及を図るとともに、関係機関・施設との連携の促進を目的とした情報共有を行った。

高知県においては、2024年11月25日に療養型病床施設を対象とした出張研修が実施され、続いて2025年3月10日には総合病院および訪問看護ステーションを対象とした出張研修が実施された。

さらに、高齢患者に対して、2024年4月5日に訪問支援が実施され、その際、患者の自宅において患者本人、訪問看護師、相談員、ケースワーカーを含む合同カンファレンスが行われた。

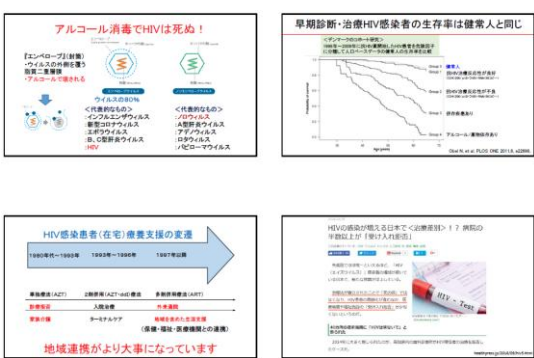


図1 HIV出張研修での講演内容(一部抜粋)

HIV感染症が慢性疾患であること、および地域連携の重要性について強調した。また、U=U (Undetectable = Untransmittable) の概念に基づき、介護や療養の現場においては他者への感染リスクがないことを明確に示した。

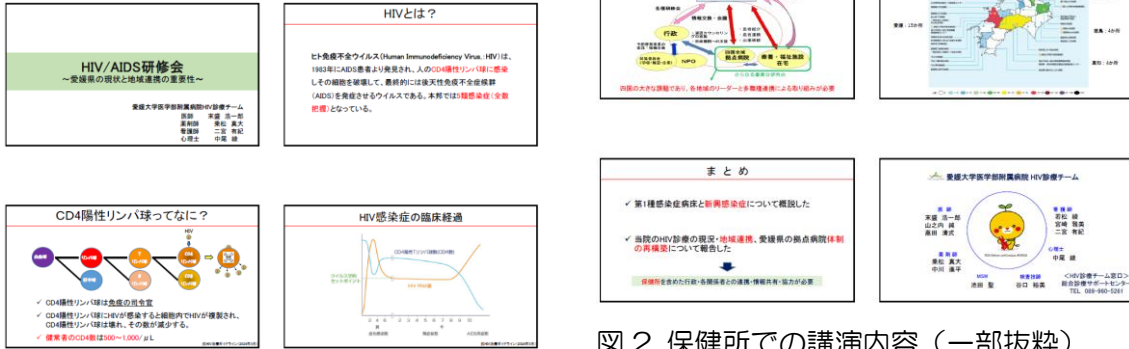


図2 保健所での講演内容(一部抜粋)

中学校・高等学校・大学の保健指導担当者から、新聞・放送などの報道関係者に至る

まで、幅広い対象に対して HIV 感染症に関する情報提供を行った。あわせて、本研究活動の内容についても情報共有を行った。

D. 考察

全国的に高齢化が進行する中、四国は中でも特に高齢化率の高い地域の一つである。このような背景において、HIV 感染者に対する介護および福祉対策は喫緊の課題であり、四国は日本における代表的なモデル地域としても位置付けられる。

四国地域における HIV 感染者の届出数は決して多いとは言えないものの、HIV 感染症が慢性疾患として位置付けられるようになり、全国的に患者数が増加傾向にある中で、四国に帰郷する感染者も一定数存在している。また、四国はエイズ発症率が相対的に高い地域でもあり、比較的若年層においてもエイズ発症に起因する就労および療養上の課題が顕在化する事例が見受けられる。

四国においては、中核拠点病院に HIV 感染者が集中する傾向が認められることから、高齢者やエイズ患者に対する介護および福祉対策においても、これらの病院が中心的な役割を果たし、課題解決に率先して取り組むことが求められている。そのため、四国各県の中核拠点病院は、高齢者福祉施設や療養施設、ならびに関連機関およびそれらを取り巻く支援環境に対し、啓発活動を積極的に展開していく必要がある。中でも、HIV に対する認識や関与が相対的に乏しいと考えられる高齢者・福祉療養施設への出張研修は、現場の意見を直接収集できるという点において、きわめて有効な

手段の一つと位置付けられる。本研究は、こうした現場の実態を把握し、四国 4 県間で情報を共有することで、今後の対策の発展に資する知見を得ることを目的としている。

四国 4 県は、患者層の特性、行政支援体制、医療資源の分布などにおいてそれぞれ異なる背景を有しており、それに応じた多様なアプローチが展開されている。したがって、各県が相補的に連携することにより、より包括的かつ実効性の高い解決策が導出される可能性が高いと推察される。さらに、本研究で得られた知見は、今後全国的な対策の展開にも貢献し得るものであり、本研究の成果を一層発展させていく意義は大きいと考えられる。

E. 結論

高齢者福祉施設、療養施設および関連機関を対象として出張研修を実施した。さらに、HIV 感染者を取り巻く地域社会全体に対する包括的アプローチの一環として、保健・教育関係者やメディア関係者に対しても講演活動を行った。今後は、継続的かつ多角的な啓発活動の展開が求められており、四国地域が地方モデルとしての機能を果たすためにも、さらなる体制の強化と質的向上に努めていく必要がある。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Nakamura S, Hara K, Kobayashi T, Sumitani R, Oura M, Maeda Y, Sogabe K,

Yagi H, Takahashi M, Fujii S, Harada T, Bando Y, Abe M, Miki H: Toxoplasmic encephalitis with high 201Tl uptake and retention mimicking malignant lymphoma in a patient with human immunodeficiency virus infection. *Parasitol Int.*101:102895,2024.

2) Inoue Y, Tenshin H, Teramachi J, Sumitani R, Oda A, Maeda Y, Oura M, Sogabe K, Maruhashi T, Takahashi M, Fujii S, Nakamura S, Miki H, Hara T, Endo I, Kagawa K, Ozaki S, Hiasa M, Harada T, Abe M: Elotuzumab-mediated ADCC with Th1-like Vγ9Vδ2 T cells to disrupt myeloma-osteoclast interaction. *Cancer Sci.* doi:10.1111/cas.16401,2024.

3) Fujishita S, Inoue A, Watanabe H, Nishikawa M, Taniwaki M, Matsumoto S, Ochi M, Suemori K, Watanabe A, Kitazawa R, Shigekawa S, Ohyagi Y, Kunieda T: A case of immunocompetent intracranial cryptococcoma in which intraoperative rapid pathological diagnosis and polymerase chain reaction led to early treatment: What to know to avoid misdiagnosis as brain tumor. *Surg Neurol Int.* 3;15:330,2024.

4) Imataki O, Uchida S, Uemura M: Metabolic pitfall of pseudoprogression after epcoritamab treatment. *EJHaem.* 16;5(6):1346-1347,2024.

2. 学会発表

1) 中尾綾、小西達矢、河邊憲太郎、加藤潤一、越智俊元、末盛浩一郎、山之内純、竹中克斗. HIV 関連神経認知障害 (HAND) における Iowa gambling task の有用性の検討.

第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

2) 堀江健太、末盛浩一郎、桑原希、中川進平、乗松真大、中尾綾、宮崎雅美、若松綾、高田清式、竹中克斗. 複数の日和見感染症を合併し難治性病態を呈した AIDS 症例に対し、内科・外科治療を行い救命できた一例. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

3) 早川幸子、川田道子、加嶋真恵、吉田陽子、大田佐代子、小田優子、住吉健太、内田俊平、今滝修、北岡陸男. 脂質異常症を合併した患者に HIV ケアチームで継続支援を行った一症例. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

4) 住吉健太、田中裕章、川田通子、加嶋真恵、吉田陽子、大田佐代子、小田優子、早川幸子、内田俊平、岩瀬孝志、小坂信二. 服薬アドヒアランス向上を目的に DTG+ABC+3TC レジメン 1 日 2 回服用から 1 日 1 回服用へ変更した小児 HIV 感染児の一例・続報. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

5) 中村信元、宮上慎司、荒井優子、泉侑希、岡本秀樹、北上早紀、後藤さおり、後藤由香、菅俊行、高橋真理、富永誠記、矢野由美子、三木浩和. 蛋白尿を契機に診断された HIV 関連免疫複合腎臓病合併キャスルマン病の一例. 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

6) 中村美保, 向井三穂子, 前田サオリ, 渡部恵子: HIV 感染症患者のサポート形成支援 (人的支援) 一長期療養における他者への病名の打ち明け支援について考える一. 日本エイズ学会認定講習会 (看護師). 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年、東京.

H. 知的財産権の登録状況 (予定を含む)

該当なし

